

市民と歩む議員の会 議会報告

発行 市民と歩む議員の会 〒564-0041 吹田市泉町1-3-40 (吹田市役所内) TEL 06-6384-1231 (代表)

吹田市議会議員(無所属)

ば ば
馬場けいじろう

みんなで創ろう
元気な吹田!!



連絡先 〒564-0041 吹田市泉町5-3-5 TEL 06-6389-8555 FAX 06-6389-8558
E-mail babakeijiro@gmail.com URL http://www.baba-keijiro.com

北千里小学校跡地への 複合施設建設

馬場 北千里小学校跡地に予定されている複合施設建設に関して、地元3連合(青山台、古江台、藤白台)の認識が一致していないことが9月議会で明らかになった。それ以降、地元とはどのような協議を行っているか。

拠点 10月初めに「北千里地区公共施設整備検討プロジェクトチーム」を立ち上げ、自治会役員を中心に調整を行っている。

馬場 3連合ごとに話を進めるのではなく、一つのテーブルについて話をすべき、連合の役員だけでなく一般市民を対象に話を聴いてほしいという声もある。

我が会派でタウンミーティングを行ったところ、8月に実施された住民説明会の案内は回覧に回されることなく、役員のところまで遮断されていた地域もあったことがわかった。

今後、地域の合意を得るためにどのような進め方を考えているのか。

拠点 大きな方向性は12月までに確定し、1月から3月末までにプロポーザル方式により委託業者(コンサルおよび設計)を確定させたいと考えている。

その後、委託業者とともに、地域にこだわらず、様々なご意見を聞かせていただく機会を設けたい。

多様な意見の集約が必要

馬場 吹田市自治基本条例に明記されているように、

「吹田市民」とはそこに住んでいる人だけでなく、通勤通学する人たちも含む。北千里には、多くの大学生や高校生も通っているが、その声はどうやって集約するのか。

拠点 意見聴取の方法については、事業者からの提案に委ねるところもあるが、大学生を初め、小中学生などの声も集約したい。

市民の声によっては施設内容の変更を

馬場 市が提案している3施設(公民館、児童センター、図書館)を基本としつつ、集約された意見の状況によっては、そこから変更になる可能性もあると考えていいのか。

拠点 市民意見や業者の提案、学生などの意見を聞く中で、ある機能が必要ないということになれば、市として一定の判断をすることになる。

北千里駅前の活性化のために

馬場 公共施設と商業施設の融合によって、駅前の価値を高めようという考え方は、行政としての共通の認識になっているのか。

拠点 地区センターの再開発および北千里小学校跡地における複合施設の建設にあたっては、施設建築物や公共施設の配置を工夫することで、両機能が一体となって人が集まり、にぎわいを創出する「場」として、駅前の価値を高めることが必要と認識している。

馬場 現在の北千里駅前には空き店舗も目立ち、活力の喪失を感じる。地区センターの再開発が着手されるまでの間、空き店舗を利用し、北千里駅周辺活性化ビジョンに掲げられているインキュベーションセンターや地域住民と大学との交流連携の場などを試験的に実施してはどうか。

拠点 ご提案については、地区センターのにぎわいを図る1つの手法と考えられるので、再整備に関する権利者等とも必要に応じて調整していく。



災害時要援護者名簿の弊害

馬場 災害時要援護者名簿の提供に同意し、市と協定を結んでいるのが6地区、個別支援計画を作成しているのが、そのうちわずか1地区となっている。どこを改善すべきと考えているか。

福祉 地域の自主的な防災意識の確認、各地区における問題点の把握がまずは必要と考えている。2月に開催する地域福祉市民フォーラムでは「災害に備える支え合い」をテーマに、先進地区の取り組み状況を紹介するとともに、各地区の状況把握のためのアンケート調査を行う予定である。

馬場 この制度の最大の欠点は、同意確認書を提出した高齢者が、自分のところには市から助けが来ると勘違いしてしまう点である。確認書には「避難行動の支援が必ずなされるものではない」と記載されているが、文字が詰まっております。高齢者には読み取りづらいようである。様式を改めるべきではないか。

福祉 制度への誤解が生じないように、広報・周知に努めていく。

馬場 協定の締結が進まない理由に、個別支援計画を作成する煩わしさがあると考えられる。何百人の個別ケースを考察するには時間がかかるのに加え、実効性のある計画を作成することは非常に困難である。そこで、個別支援計画の策定までは求めず、災害時の安否確認を求めるだけにしてはどうか。災害対策基本法が求めるものとは異なるが、市独自の方法として検討できないか。

福祉 国の取り組み指針では、災害時には、災害情報の伝達、安否確認、避難誘導を行うことになっている。地域の実情に合わせ、個別支援計画の作成をお願いしたい。

馬場 高齢者と障害者の双方を対象とすることに、地域での抵抗感もある。障害者の場合、障害特性に理解が浅いため、どう接していいかわからないことからくるようである。障害者団体などからは、災害時に障害者の安否確認や避難状況の把握をするための「障害者災害センター」を設置するよう提案がなされている。熊本地震の際には「被災地障害センターくまもと」が設置され、障害者の安否確認に大きく貢献したと聞いている。要援護者名簿のうち、障害者に関する情報は障害者作業所を中心としたセンターの運営団体にあらかじめ提供し、個別支援計画の作成を依頼することも可能となる。

福祉 災害時要援護者名簿の提供は本市と協定を締結

した地域支援組織に限定している。避難支援にはマンパワー等が必要であり、障害者作業所などに名簿情報を提供することは考えていない。災害時に障害者に特化した支援を行う組織の設置については、他市の状況を参考にしながら協議したい。

馬場 要援護者支援制度は現状ではうまく機能しておらず、そこに固執する必要はない。国の法律に関わる事項でも「地方分権改革・提案募集方式」を活用すれば認められることがある。市の取り決めならなおさらであり、柔軟に変更すべきである。

健康寿命の増進

馬場 本市と同じく健康寿命の増進に力を入れている和歌山県橋本市では、介護予防事業の一つとして筋力向上トレーニング事業「げんきらり〜教室」の自主運営教室の取り組みを市内各地に広げている。橋本市では、連帯感を創出するためのTシャツの作成、マンネリ化を防止するための他市との交流、市内全体交流会なども開催している。本市でも同様に「いきいき百歳体操」の拡充に取り組んでいるが、実施箇所数と目標数を示してほしい。

福祉 平成30年度11月末現在、116グループが週1回以上活動している。目標としては「第7期吹田健やか年輪プラン」において、2025年に375グループとなるよう掲げている。

馬場 取り組みを広げるため、どのような方策を実施しているのか。

福祉 「いきいき百歳体操」の効果を含めた記事を、市報やホームページに掲載するとともに、地域包括支援センターの出前講座での普及啓発を行っている。また、「第7期吹田健やか年輪プラン」の重点取り組みとして、活動グループを対象とした交流会や表彰などによる普及啓発の検討を進めているところである。

馬場 「いきいき百歳体操」とともに、認知症予防にも取り組みたいので、10分程度のプログラムを作って



ほしいとの市民の要望が届いていると思うが、検討状況はどうなっているか。

福祉 平成31年度の早い時期の導入を目指し、認知症予防の脳トレ体操プログラムを現在作成中である。

留守家庭児童育成室の諸問題

馬場 市が運営する留守家庭児童育成室（学童保育）の指導員には主任などの制度がなく、全員が横並びになっている。市役所の担当課からの指示、学校からの情報伝達、災害時の安否確認や出勤可否の指示において、問題が生じているのではないかと。

地教 放課後子ども育成課からの指示や報告については各育成室の連絡担当指導員が担っており、学校からの情報伝達はベテラン指導員が中心となって行っている。個々の裁量によって課題を処理するなど、一部では一人で悩みを抱えこんでしまうようなケースもある。

指導員不足を解消するために

馬場 指導員の定員と欠員の状況を示してほしい。

地教 平成30年12月1日現在の定員は135人で、欠員は27人となっている。

馬場 指導員の担い手不足の原因をどのように認識しているのか。

地教 全国的に教員、保育士が不足していることに加え、近年は採用後間もない指導員の定着率の悪さが目立っている。新採の指導員であってもいきなり高度な保育や保護者対応が求められること、指導員間の職責の違いがないために一人で仕事の負担を抱え込んでしまうことなどが要因と認識している。

馬場 指導員を確保するため、身分の安定した正職員として採用することも検討すべきではないか。

地教 指導員の業務は基本的には午後からの短時間であるため、正職としての配置は困難と考えているが、指導員の勤務形態については、非常勤や雇用期間の異なる臨時雇用員など、様々な形があるため、来年度に予定されている会計年度任用職員制度の移行と合わせて、主任指導員の設置や雇用のあり方を協議していきたい。

太陽の広場との連携

馬場 放課後の子どもたちの居場所づくりに関しては、学童保育と太陽の広場の連携も進んでいるが、民間委託の場合、それがうまくいくのか心配だという地域の声も聞こえてくる。

民間委託された留守家庭児童育成室の中に保育内容があまりに劣悪な事業者があるという評判が他地域に

も広がっており、きちんと話し合いができるか懸念しているようだ。

民間委託された留守家庭児童育成室が太陽の広場とどう連携しているか、現状を示してほしい。

地教 留守家庭児童育成室の事業委託に当たり、業務内容を仕様書に定めているが、その中で太陽の広場との連携に努めることも明記している。

現在、運動場での自由遊びでの交流の他、両事業者関係者・学校・行政による連絡会議への出席や合同避難訓練への参加など、直営実施の場合と同様に行われている。

引き続き両事業の連携を進め、子どもたちの安心安全な居場所づくりを行っていく。

夏休み期間中の昼食

馬場 夏休み期間中、留守家庭児童育成室を利用する児童の昼食はお弁当を持参することになっている。働く保護者にとっては、たいへんな負担になっており、いわゆる「小1の壁」の一つにも挙げられる。猛暑の中で保存となり、衛生面も心配される。

奈良市では平成30年から仕出し弁当の配達による昼食の提供を開始した。文京区や新宿区、越谷市などは保護者会による仕出し弁当の手配を認めているそうである。

吹田市としてもまずは保護者のニーズ調査を実施してはどうか。

地教 これまでは食育の観点から、保護者の皆様にお弁当の持参をお願いしてきたが、働きながらのお弁当づくりは保護者にとって大きな負担であることは認識している。まずは他市の状況を調査研究していきたい。

保育施策の充実で 保護者の負担を軽減せよ

馬場 保育所等の空き状況を見ると、ほとんどで満員となっている中、公立の認定こども園には空きが多いことがわかる。その理由をどのように分析しているか。

児童 幼稚園型認定こども園は利用年齢が3歳からとなっており、2歳児からの進級児がないため利用定員の数だけ受入が可能である。4・5歳児については幼稚園に入園される児童もおり、幼稚園型認定こども園入園を希望する方が少ない。

認定こども園の定員割れの原因は？

馬場 希望が少ないのは保育時間に問題があるのではないかと。利用希望者からは保育時間の延長を求める声を聞くが、その対応はできないのか。

※公立保育園の保育時間は7時から19時までなのに対し、認定こども園では8時から18時となっている。

児童 来年度の申込状況を分析しながら、今後どうするか検討したい。

「支援枠」を拡充すべき

馬場 特別の配慮を必要とする家庭のため「支援枠」が準備されているが、現状で0～2歳児は公立保育園7園に1枠ずつのみとなっている。少なくとも中学校区に1つは整備すべきであり、私立園に利用料程度をお支払い、枠を確保してもらうなどの対策が必要ではないか。

児童 現状では0～2歳児は7園で各歳児1枠ずつ、3～5歳児は緊急一時保育枠との併用で、全16園で各歳児1枠ずつを確保している。

平成30年度においては、4月から11月末までで2歳児で1枠、4歳児で1枠の利用という状況で、要保護児童で保育の利用が適当と認められた場合にはいずれかの施設を利用できると認識している。

馬場 千里丘に在住の方が岸部保育園を勧められるなど、決して利用しやすい状況とは言えない。改善を求める。

児童 支援枠の拡充は常に枠を空けておくことになり、待機児童がいる中では市民の理解を得るのは困難だと考える。私立園についても定員を超える児童を受け入れてもらっており、これ以上の枠の確保をお願いするのは難しい状況である。

園による紙おむつの処分を

馬場 保育園で使用した紙おむつについて、本市では保護者が持ち帰っているが、園で処分する動きが全国の自治体で広がっている。平成30年4月から文京区は公設公営の認可保育園で、豊島区では公立私立を問わず認可保育施設で回収処理を行っている。

猛暑のなか保育室に長時間おいていたものであり、悪臭や菌の増殖が懸念される。また、お迎えの後に汚れたおむつを持ったままスーパーに立ち寄るため、衛生面での心配もある。

実現されれば、保育士も一人ひとりのおむつをポリ袋に入れ、封をする作業から解放され、本来の業務である子どもを見守る時間が増えることにもなる。

児童 公立保育園で使用したおむつは、その日の子ども達の排泄状況から健康状態を知ってもらうため、布おむつ・紙おむつのいずれも保護者に持ち帰っていただいている。

軟便や下痢のときは、感染症を防ぐために紙おむつを使用しているが、使用済みのおむつが感染源にならないよう、保育所で適切に処分するための準備をすすめている。

衛生面や保護者の負担軽減などの観点から、全ての使用済み紙おむつを保育園で処分する自治体があることは認識しており、処分に係る費用や、処分までの保管場所、その場合の衛生管理方法など、今後研究していきたい。

レンタル布団の導入を検討せよ

馬場 公立保育園では布団は園が所有し、保護者の手

によって週1回天日干しされている。通勤前の忙しい保護者の時間を奪うことにもなり、雨が続きと非常に不衛生でシラミの発生なども心配される。

民間園ではレンタル布団を導入しているところもあり、公立園の保護者からも導入を求める声が上がっている。

児童 私立保育園で布団をリースしている事例があることは把握しているが、保護者の費用負担が生じることから現時点では導入は困難と考えている。今後のあり方については引き続き調査研究していきたい。

馬場 2019年10月以降、保育料が無償化される方針であり、実現すれば経済的な余裕も生まれ、保護者の費用負担が必要となる制度変更の機会となる。レンタル布団以外にも、様々に検討すべきである。

老朽化した保育園は建替えを

馬場 園舎の老朽化も目立つ。雨漏りがひどく、雨が降るとタイヤをならべている園もある。

待機児童の解消のため、新たな受け皿づくりに取り組んできたが、一定の目途が立った今、既存施設の整備にも注力すべきである。既存の園舎の大規模修繕や建替えの計画は立てているのか。



児童 公立保育所における園舎の修繕については、優先度や老朽化を総合的に判断し、床、トイレ、プールの修繕を計画的に実施している。

園舎の建替えについては、今後の入所児童数の推移や施設の老朽化を見極め、将来的な施設のあり方を検討していきたい。

拠点 = 拠点整備担当理事（都市計画部）

地教 = 地域教育部長

児童 = 児童部長

福祉 = 福祉部長

2月定例会は2月22日から3月25日まで開催予定

⇒「市民と歩む議員の議会報告」次号は4月中旬に発行予定です。

馬場けいじろうプロフィール

昭和52年9月28日生まれ

西吹田幼稚園、吹田第二小、吹田第六中、東大寺

学園高校、早稲田大学政治経済学部卒

平成27年4月 吹田市議会議員 初当選

〈議会での役職〉

建設環境常任委員会副委員長、北大阪健康医療都

市等のまちづくり検討特別委員会委員、都市計画

審議会委員